



平成31年2月28日

各位

会社名 ラオックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 羅 怡文
(コード番号8202 東証第2部)
問合せ先 経営管理本部長 阿部洋介
(TEL 03-6852-8883)

連結業績予想数値と実績値との差異ならびに
営業外費用、特別利益および特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成30年11月14日に公表いたしました平成30年12月期通期(平成30年1月1日から平成30年12月31日)の連結業績予想数値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、当社は、平成30年12月期(平成30年1月1日から平成30年12月31日)の連結決算において、営業外費用、特別利益および特別損失を計上いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値と実績値との差異について

(1)平成30年12月期通期連結業績(平成30年1月1日から平成30年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	120,000	△300	△300	—	—
実績値(B)	117,995	△851	△1,250	△1,020	△15.82
増減額(B-A)	△2,004	△551	△950	—	—
増減率(%)	△1.7%	—	—	—	—
(参考)前期実績 (平成29年12月期)	64,291	137	47	177	2.76

※平成30年12月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、平成29年12月期については当該確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額によっております。

(2)差異の理由

夏以降に連続して発生した自然災害の影響等による国内消費マインドの低下が想定以上に長引いたことから、生活ファッション事業における歳暮商戦の売上が未達となりました。また暖冬の影響から、靴事業の秋冬商品の需要が減退したのに加え、販売促進策の早期実施により採算の悪化が生じました。これらにより、売上高、営業損失が前回予想を下回りました。またこれに加え、貸付先の財政状態等を勘案し貸倒引当金繰入額を営業外費用として計上したことから、経常損失も前回予想を下回りました。

2. 営業外費用、特別利益および特別損失の計上について

(1) 営業外費用の内容

当社の貸付先の財政状態等を勘案した結果、貸付金のうち回収不能見込額に対して貸倒引当金繰入額 642,787 千円を営業外費用として計上いたしました。

(2) 特別利益の内容

第3四半期連結累計期間までにシャディグループの株式取得により負ののれん発生益 4,371,679 千円を計上していましたが、暫定値の修正等により当連結会計年度では 4,372,319 千円となりました。

(単位: 千円)

	第3四半期 連結累計期間	第4四半期 連結会計期間	当連結会計年度
負ののれん発生益	4,371,679	640	4,372,319

(注) 本金額は、現時点で入手可能な合理的な情報等に基づき計算した暫定値であります。「企業結合に関する会計基準」に基づき、企業結合日以後1年以内に取得原価を配分し、会計処理を確定いたします。

(3) 特別損失の内容

第3四半期連結累計期間までに固定資産の減損損失 3,579,776 千円を計上していましたが、年度末において将来の回収可能性を再度検討した結果、追加の減損損失 301,409 千円を計上したことにより当連結会計年度では 3,881,185 千円となりました。

(単位: 千円)

セグメント名	第3四半期 連結累計期間	第4四半期 連結会計期間	当連結会計年度
リテール事業	1,856,182	77,369	1,933,551
エンターテイメント事業	445,542	22,477	468,019
SC ディベロップメント事業	1,278,052	201,562	1,479,614
合計	3,579,776	301,409	3,881,185

以上